



私たちちは、「御同朋の社会をめざして」という目標を掲げて活動していくま
す。御同朋とは、阿弥陀如来に願われていろいろのち。すなわち「違いを超えた
すべてのいのちが尊ばれる世界をめざす」歩みだといたします。
「日本初の人権宣言」と謳われる水平社宣言から、3月3日で100年が
経ちました。私たちの何が変わり、何が変わっていないのかをここで話そう
と思つていきました。

先日2022年2月24日、ロシアはウクライナに軍事侵攻を始めました。戦争は、人権侵害です。戦争は、人権抑圧です。戦争は、人命軽視です。いかなる理由を以てしても、戦争を肯定してはなりません。過去の戦争協力の反省に立ち続ける私たちは、声を上げ続けなければなりません。

3月1日に張り替えたお寺の掲示板には、「軍事力という名の、暴力。」と書いています。横に小さく、「だれもすくわれん」と書き足して。みんな、とつくにわかっています。暴力では誰も救えない。軍事力で得られる安心とは、それがわずかでも行使された瞬間から消し飛んでしまうものです。アジア・太平洋戦争の終戦から77年を経た今も、行使した側された側、双方に傷は遺り続けています。

3月7日現在、ウクライナでは軍だけではなく、国民に呼びかけて抵抗を続けています。そのニュースに触れたとき、私はウクライナの人たちに「銃を持つてはいけない」とは、言えない気持ちになりました。私が今あそこにいたら、どうするだろうか？ 今と同じように声を上げることができるだろうか？ 自らに問いかけ、頭を抱えています。一刻も早く平和が訪れることがあります。

願いますが、願うことしかできない我が身の無力さを感じずにはいられません。

A close-up photograph of a yellow-throated warbler perched on a bare, light-colored branch. The bird has a distinctive black and white striped crown, a bright yellow throat patch, and a white belly with dark streaks. It is facing left, looking towards the horizon under a clear blue sky.

あらためて水平社宣言の「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の言葉をかみしめて歩み続けます。

 福岡組

検索